福島放技ニュース
THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS
2010
1月1日号
118 VOL.

発行所　社団法人　福島県放射線技師会　　〒960-8003　福島市森合字蒲原16-7　TEL/FAX 024(559)1043
ホームページアドレス　http://fart.jp/

巻頭言

新年を迎えて

会長　鈴　木　憲　二

明けましておめでとうございます。

昨年は国政において衆議院選挙があり長年政権を担当していた自由民主党から民主党への政権交代があり、新しい政治が始まるとの期待感を国民誰もが抱いていた。しかし、肝心の日米関係は普天間飛行場移設を巡っては迷走し鳩山首相の主体性のなさに国民の支持率も徐々に落ちてきている。また企業業績の悪化や収まらぬ雇用不安により日本経済も冷え込んだ。

医療界においては昨年大流行した新型インフルエンザへの対策が後手後手となったり、度重なる診療報酬の引き下げによる病院経営への圧迫、医師不足と悪政による病院の閉鎖等多くの問題を露呈した。来年度は診療報酬改定の年となり、現厚生大臣は診療報酬の引き上げを示唆しているが不況による税収の落ち込みが大きく社会保障費財源を確保することが重要な問題となっている。昨年の中央社会保険医療協議会（中医協）の人事で北村日本放射線技師会長が専門委員として就任することとなり、我々放射線技師に関係のある診療報酬ＵＰに努力していただきたい。

昨年、福島で開催された生涯学習セミナー「Ｘ線ＣＴ検査」では福島県から多くの参加者があり予算的にも黒字決算となったが、日本放射線技師会主催とはいえ地域への配分が無いどころか、必要経費と思われるものまで削減された。

今年は日本放射線技師会の役員改選があり、会員に直接関係がある地域放射線技師会及び各都道府県技師会への主体性をもたせる役員を選択することが必要となってくる。

福島県放射線技師会においては公益法人への移行申請を福島県に提出するところであるが公益性のある活動を県民にアピールしていかなければならないが、平成２２年９月４日（土）から５日（日）にわたって福島医大　陸上競技場をメイン会場として開催されるリレー・フォー・ライフに後援する事とした。

リレー・フォー・ライフとは「がん撲滅運動」でがんによる死亡者を減らし、患者の生活の質の向上が大切であることを社会に呼びかけるイベントです。このイベントは各団体２～３のチームを編成し各チーム参加者がイベント会場でキャンドルライトセレモニーや募金活動を行うもので「がんは２４時間眠らない」との理由から２４時間実施するものです。是非多くの会員がこのイベントに参加するようお願いしたい。また福島県放射線技師会の各分科会で研修や講演会を開催しており、会員の技術向上と知識の高揚により県民へのよりよい医療提供のためにも是非受講していただきたい。

謹賀新年

（社）福島県放射線技師会
会長　鈴木憲二
副会長　斎藤康雄
〃　遊佐烈
監事　片倉俊彦
〃　高橋宏和
理事（県北支部長）　佐藤靖芳
〃（県南支部長）　佐藤政春
〃（会津支部長）　白川義廣
〃（浜通支部長）　嶋田峻二
理事　今野英麻呂
〃　佐藤勝美
〃　渡邊和夫
〃　菅野和之
〃　山田隆弘
〃　栗田祐治
〃　今野広一
〃　渡部育夫
〃　新里昌一
〃　堀江常満

平成21年度 第2回理事会議事録(抄)

日　時：平成21年11月13日㈮　午後14時～
場　所：福島県立医科大学附属病院放射線部カンファランス室
出席者：鈴木会長、斉藤副会長、遊佐副会長、片倉監事、栗田、佐藤（靖）、渡部、渡辺、嶋田、新里、白川、佐藤（勝）、今野（広）、菅野、堀江、佐藤（政）理事、（事務局）阿部

議長に斉藤副会長、議事録作成人に会津支部（白川）が担当で議事に入る。

議　題

1、平成21年度事業進捗状況委員会報告

○会長より、平成21年度活動報告（4月2日～11月1日）が有りました。

○ネットワーク委員会よりホームページの更新についての報告がありました。

○調査委員会より報告がありました。

○生涯教育委員会より11月29日開催予定のCTセミナーについて説明が有り、続いてイベントの日本放射線技師会への申請登録については、今後、生涯学習委員会が担当することになり、下図の流れで行う事となった。（図略）

○精度管理委員会より中間報告がありました。

○学術委員会から11月1日開催の県学術大会についての報告が有り、次年度の開催施設についての提案が行われましたが、細部について再検討し提案するよう求められました。

○福島マンモグラフィ技術講習会についての報告が有りました。

○各委員会委員の改選時には、引継ぎを行い委員長が必要と認めたメールについては、CDRにて引き継ぐことが確認された。

2、平成21年度東北地域学術大会報告

○日放技の北村会長が、中医協（診療報酬改定を議論する中央社会保険医療協議会）の専門委員に任じられました。

○斉藤副会長より平成21年度第2回東北地域技師会、技術学会東北部会協議会及び平成21年度第3回東北地域会長会議についての報告が有りました。

3、その他

○白川理事より次年度開催の福島県放射線技師会総会（会津支部担当）についての報告が有りました。

○会費未納者についての督促を行う事が確認されました。

平成21年度生涯学習セミナー「X線CT検査」開催される

平成21年11月29日㈰福島県立医科大学付属病院において平成21年度生涯学習セミナー「X線CT検査」が開催された。この生涯学習セミナーは日本放射線技師会が昨年まで教育センターおよび東京教室で開催していたセミナーを、全国に普及・拡大させて多くの放射線技師が学習できるようにとの趣旨で地方開催となったものである。

医療人として必須な資質を受講することにより履修できることで患者に対し安全かつ良質な医療を提供することを目的にした「X線CT検査」のカリキュラムで構成され福島県内外から多くの技師が参加し有意義なセミナーであった。参加者には「終了証」が発行された。　（今野）

「平成21年度放射線技師学術大会」開催される

平成21年11月１日㈰平成21年度放射線技師学術大会が福島県立医科大学講堂で約160名の参加で開催された。
開会式は新里実行委員長の挨拶で始まり、鈴木県技師会会長の大会長挨拶の後、平成20年度学術奨励賞の授賞式が行われ、「散乱線からの患者被ばく線量の推測」福島県立会津総合病院　平塚　幸裕、「直接変換型FPD搭載Ｘ線ＴＶシステムの基礎的検討」いわき市立総合磐城共立病院　桑村　啓太の両氏に贈られた。
続いて学術発表が行われ今年度の演題総数は25題であった。その内訳は「CT・画像評価」３題、「MRI」５題、「一般撮影・ペイシェントケア」３題、「DSA・線量測定」３題、「RI」３題、「治療」５題、「PACS・フィルムレス」３題であった。
ランチョンセミナーは「ビジパークを用いたカテーテル領域の診断と治療」と題して仙台厚生病院循環器内科井上直人先生より講演をしていただき、大変有意義なランチョンセミナーとなった。　（今野）

寄　稿

「平成20年度学術奨励賞」を受賞して

県立会津総合病院　　平塚　幸裕

このたび、昨年度の県の学術大会での発表が学術奨励賞に推薦され、今年度の大会でその表彰を受けてまいりました。推薦の知らせに、初めは「えっ！ほんとに？」が正直なところで、若い方々の最新技術の発表内容と比べるたびに疑心が増すばかりでした。最初の構想では、前任者の方々が毎日の業務で記録していた術者やスタッフの被ばく線量の5年分の記録（心血管撮影室）の分析を行う予定でした。が、あまりにもデータ量が多すぎて途中であえなく挫折。今回の内容は、方針の変更後新たに考えたものです。〆切は9月1日、こんな感じでいけそうかなあと考えはじめたのが7月のはじめ、まだデータも無

く上手くいくかどうかの確信もゼロ。じっくり構えて次の年に回そうかと何度も思いましたが、時間をかけても上手くいくとは限らないし予定外の出来事がないとも言えない。だったら今回思い切ってやってしまおうか？が最終決断でした。でも結果的にはこの「窮鼠猫をかむ」の追い込まれた気持ちが何とかしてくれたのかもしれません。

〆切の9月1日に演題申し込みのメールを送信してしまってからは、ただデータ取りの毎日でした。線量計を借りてきて、空き時間には先輩に手伝ってもらい、当直では急患が来ないことを祈りながら淡々と測定。ところが４日前に大きな計算ミスが発覚。頭が真っ白になりながらも先輩に校正してもらったら、今度は大事な単語の使い方ミス。発表当日は余裕を持って臨もうとしたのに出発ぎりぎりで救急室に呼ばれ、本番ではゆっくり話そうとしすぎてかなりのタイムオーバー。思い出深い1日でした。発表後に駆け込んだ駐車場の車中で見た世紀の名勝負「第138回天皇賞・秋」は忘れられません。

ご協力いただいた職場のみなさん、ありがとうございました。これからも、被ばく線量の５年分の記録のような小さなことの積み重ねを業務改善に役立てていきたいと思います。

いわき市立総合磐城共立病院　　桑村　啓太

この度は学術奨励賞を受賞させていただきまして、ありがとうございます。私にとって、福島県放射線技師学術大会での演題発表は、今回が初めてでした。それにもかかわらず、その結果をお認めいただいたことは、ひとえに先輩をはじめ皆様のご指導の賜物と心から感謝しています。

今回は、直接変換型FPD搭載X線TVシステムの基本特性について発表しました。当院では初となるFPDパネル搭載装置ということもあり、新しい技術に期待とともに疑念が持たれていました。そこで、実際に画質向上あるいは被ばく低減されているのか、検討してみることにしました。当初はＩ.Ｉ.搭載型と比較する予定でした。しかし、装置間で撮影条件等を合わせることに難航し、結果

もうまくまとまりませんでした。その中で、視野サイズを変えた場合の画質や被ばく線量の変化が、Ｉ.Ｉ.搭載型とFPD搭載型とで異なることに着目しました。結果、FPDでは視野サイズを大きくしても歪みがなく、解像度が変わらない、視野サイズを小さくした場合も透視線量が変わらない、という特性を得ました。また、パルスレートを下げることにより透視線量を低減することができました。現在はこの特性を活かし、大きな視野サイズから小さな視野サイズを必要とする泌尿器検査や、動きが少ないためパルスレートを下げることのできる整形検査等に主に使用されています。

今回の実験を通し、装置の特性を知るために実験を行うことの重要性を感じました。今後も装置の老朽化に伴い、装置の更新が行われます。装置の技術は日々新しくなっています。新しい装置の基本特性を学び、装置をより有効利用するために、これからも精進していきたいと思います。今後とも一層のご指導ご鞭撻をいただきますようお願い申し上げます。

支部便り

会津支部

「第72回　会津画像研究会」開催される

平成21年10月30日㈮、山鹿クリニックにおいて、第72回会津画像研究会が開催されました。紅葉燃え盛る中多くの会員に参加して頂きました。

演題は「ＤＰＣとジェネリック造影剤」について、コニカミノルタヘルスケア㈱の診断薬営業部の細井候利氏からお話をしていただきました。

まず、ＤＰＣとは、従来の診療行為ごとに計算する「出来高払い」方式とは異なり、患者の病名や症状をもとに手術などの診療行為の有無に応じて、厚生労働省が定めた１日当たりの診断群分類点数をもとに医療費を計算する新しい定額払いの会計方式です。

平成15年４月より大学病院、特定機能病院において試行され、平成16年より民間医療機関においても試行されました。ＤＰＣが医療界にもたらす影響として放射線科関連分野では、従来入院中に行われていた画像診断や血管造影が外来にシフトする傾向が強まっていることと、造影剤のジェネリック医薬品へのシフトが急速に進展しています。

「第８回会津肝胆膵画像研究会」開催される

平成21年11月27日㈮ワシントンホテルにて開催されました。

演題は「非イオン性造影剤イオメロンの話題」について、エーザイ㈱の医薬部造影剤領域室の冬頭孝一氏が講演されました。

「イオメロン」は、イタリアのブラッコ社が開発した非イオン性ヨード造影剤です。同一濃度製剤と比べ低浸透圧、低粘度という特性を有しており各種の血管撮影、ＣＴ、静脈性尿路撮影において臨床上の有用性が高い造影剤です。肝臓癌などを診断するための肝臓ダイナミックＣＴは、近年普及してきたマルチスライスＣＴを用いることで、肝臓すべての領域を１回の呼吸停止下で撮影でき、また短時間で高い造影効果を得ることが可能になりました。

一般演題として「肝臓ダイナミックＣＴ検査における至適造影法の検討」について竹田綜合病院の加藤裕之氏から現場での意見をお話しして頂きました。

また特別講演として「肝癌診療における画像診断の最新の話題」について近畿大学医学部消化器内科の主任教授　工藤正俊先生より私たち放射線技師にも大変分かりやすく具体的に講演をしていただき、今後の現場において大変有意義でありました。（原田）

県北支部

福島市民検診マンモグラフィ読影会について

今年も7月から毎週水曜日、18時30分より福島市保健福祉センターにおいて市民検診のマンモグラフィ二次読影会が行われました。

今年は無料クーポンの影響もあり受診者数が昨年度より大幅に増加しており、12月いっぱい無料クーポンの受診受付行っていたため、年末まで読影会が開催されました。12月2日の読影会では4組（8人）の先生方が約800人分のフィルムを読影しました。

読影会では、その月の担当施設の技師と、検診をしている各施設の技師が参加しており、先生方のすぐ後ろで読影を見ることが出来ますので、自分の施設で読んだ写真二次読影結果や先生方の読み方、他施設の写真との比較など、さまざまな情報を得ることができ大変勉強になります。

読影終了後には精検になったフィルムの所見の確認や意見交換なども行われています。

マンモグラフィ検査にたずさわったばかりの方やベテランの方でも、得る事が非常に多いと思いますのでぜひ参加してみてはいかがでしょう。（林王）

編集後記

新年明けましておめでとうございます。昨年は政権が交代し、一年の漢字一文字も「新」となりました。今年は皆様にとって良い新しい年でありますようお祈り致します。今回が初めての編集となりましたが今後とも宜しくお願い致します。（村上）